



物を大切にすることを

校長 山崎 泰央

朝夕ようやくしのぎやすくなり、稲穂がこうべを垂れて収穫の時を迎えています。

2 学期が始まって一ヶ月。どの学年も学習の充実をめざして日々の授業を大切にするとともに、修学旅行や社会見学、町探検、地域めぐりなど、教室を飛び出して校外でも生き生きと学んでいます。

さて、今学期は、集中して学習するための取組の一つとして、筆箱の中身を整えることを全学級で取り組んでいます。始めてまだ一ヶ月ですが、子どもたちの筆箱の中を見ると、学習に必要な用具が必要なだけ揃っていることが増えてきました。また、消しゴムや鉛筆が一つでもなくなったことに気づくと、見つかるまで探す子どももいます。たかが筆箱チェックと思いがちですが、必要な物を必要なだけ準備して使うことは、物を大切にする教育につながると思っています。

物を大切にする良さについては、古来より多くの先人が論じています。老子（中国春秋時代の哲学者）は、「足るを知る」（＝「満足することを知っている者は、心豊かに生きることができる」）と説いています。その時の状況に不満を抱きもっと欲しいもっと欲しいという生き方より、その状況に満足し満ち足りた心で生きることのすばらしさを教えてくれます。また、ルソー（フランスの哲学者）も、著書『エミール』の中で、「子どもを不幸にする一番確実な方法はなにか、それをあなたがたは知っているだろうか。それはいつでもなんでも手に入れられるようにしてやることだ」と述べています。現代は欲しいものや魅力的な物がいつでも手に入る便利な時代だからこそ、買い与え過ぎることに警鐘を鳴らす必要があると考えます。欲しい物は、誕生日のお祝いや特別な記念日まで待つとか、お年玉などを貯金して自分で買うなど、我慢する力を意図的に育てることも大切だと思います。今の状況に満足と感謝の気持ちを持てる子どもに育てることが、子どもの将来の自立（自律）につながるのではないのでしょうか。本当に必要なものかどうか子どもと話し合っ決めて決めることも必要ですし、どうしてもだめなものはだめと言える大人でありたいとも思います。

年度の折り返しの時期となりましたが、今後とも子どもたちの成長に寄り添い、子どもたちの今に必要なことを伝えていこうと思います。保護者・地域の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いします。